

高木復興大臣ぶら下がり会見録

(平成27年11月16日(月) 14:55~15:02 於) 南相馬市)

1. 発言要旨

本日は富岡町役場郡山出張所、田村市役所、川俣町役場、南相馬市役所を訪問させていただきました。首長さんとの意見交換では、富岡町では避難指示解除の時期の適切な判断、帰還困難区域の除染、整備される複合商業施設の安定経営の支援など財政支援等について要望を受けました。

田村市では、ほ場整備など福島再生加速化交付金の事業の柔軟な制度運用、木質バイオマス発電やCLT産業の推進に向けた支援について。

川俣町では、財物賠償の格差の課題の対応、除染の推進と仮置場の早期解消、コミュニティー再生への支援や国道114号の早期除染等について。

南相馬市では、小高復興インターチェンジの設置、ロボット研究実証拠点や小高区の復興拠点施設の整備、働き手の確保、放射線の不安の軽減についてなどの要望がございました。

そうしたお話がありまして、私からは避難指示解除に向け地元と十分に協議を進めること、帰還困難区域の除染は居住制限区域の除染を進めた上で考え方を整理していく必要があること、中間貯蔵施設の整備を推進すること、複合商業施設への支援や、ほ場整備、復興インターチェンジ、研究拠点、復興拠点施設など個別の課題については、国、県、地元、市、町で相談していくこと、木質バイオマス発電やCLT産業も関係省庁や県と連携して適切に対応していくこと、財物賠償の格差は制度上、難しい課題でありますけれども、コミュニティー再生の課題などとともに帰還が進むように検討していくこと、働き手の確保というような話も今、頂いたところでございまして、そうしたことにも取り組みたいというような話もさせていただきました。

今後とも被災地の状況をつぶさに自分の目で確かめながら、被災地の声を丁寧に伺いながら、しっかり復興を前に進めてまいりたいと、そのように感じさせていただいたところでございます。

私からは以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 大臣、今日で就任以降、福島の内々ゆる12市町村の首長さんと全てお会いして話をされたわけなんですけれども、改めて所感と、それを受けて今後どのように職務に取り組むかをお願いします。

(答) 本当に御苦労なさっていらっしゃるなということとはよく分かり

ました。その中で帰還に向けて、あるいは復興拠点等々まちづくりに関して一生懸命にやっていたということをつぶさに拝見させていただきました。そして、また市、町によっていろんな課題が違うということも認識できましたし、御指摘のとおり、今日で一回りはさせていただきましたけれども、これからも頻繁に現場に入らせていただいて、先ほど申し上げたとおり、声をお聞きする、あるいは自分の目で状況を確認する、そうした上で、この復興の加速化に向けて頑張っていきたいと、そういう思いでございます。

(問) 今日、いろいろ首長から聞かれましたけれども、これまでも大臣には地元からの要望というのはいろいろと入っていると思うんですが、原発被災地の自治体の特に南相馬と首長を始めとして初めてお会いになって驚かれたこととか、全くそれは聞いていなかった、新鮮と思われたことがあったらお話してください。

(答) 要望書を事前に頂いたりもしておりますので、あらかじめ予想できるところもありますけれども、正直申し上げて、そうか、こういう課題があったのかというようなことを聞くこともたびたびあります。私どもは産業、あるいは生業をつくるという言い方をしておりました。ただ、先ほどいらしたかと思えますけれども、逆に仕事はあるんだけれども人がいないという話も、実は私、勉強不足で恐縮でありますけれども、そういう現状もあるんだなというようなこともお聞きしました。

(問) 時給が高いといった話もあったが。

(答) そうです。そういうことも含めてですけれども、ですから、先ほど申し上げたとおり、自分が予期せぬというか、まだ復興庁も十分に把握していないこともやはり現場にはあるということがあるんだなということは認識いたしました。

(問) 大臣、それで今後のことも含めてなんですかけれども、ここの桜井市長は御自身が市政に対する姿勢が情報公開・オープンマインドということだけではなくて、そもそも復興庁にとっても地元の要望を、自治体からの要望を聞く会が、市長は隠しごとがないはずで、こういうのは全部基本的にオープンになっているわけです。それを大臣も今日、オープンだということをおっしゃったんですけれども、このスタイルの在り方ですけれども、復興庁の官僚が勝手に情報をクローズドにして(冒頭のみをプレスにオープンにしようとしたわけですが)、これはもう取材妨害でけしからん話だと思っんです。いかがですか。

(答) 終わってから、今日も丁寧にぶら下がりなどもさせていただいておりますし、正直なところを申し上げると、ちょっと言葉は適切ではないかもしれませんが、誤解を生むといけませんけれども、

腹を割ってというんでしょうか、ざっくばらん、たまたまこちらの市長さんは私と同じ年、同じ月に生まれていますから、だから随分親しみも湧くわけでありませうけれども、短い時間の中でお互いに自由にというんでしょうか、もちろん皆さんがいらっしゃるから自由でないということではありませうけれども、そんなようなこともやはりあるかなと思いますので、基本はやはりオープンでいいのかなと思いますけれども、場面場面によるということにも御理解いただければというふうに思います。

(問) 御案内のように、昨日、福島県議選がございました。自民党は現有2議席を減らして現職4人が苦戦するという事態でした。復興のおくれ、恐縮ですけれども、週刊誌報道をめぐる大臣御自身の問題でなかなか福島に来ていただけないという県民の不満も聞こえます。復興の遅れが政権与党に批判として集まったのかという考えもあるんですけれども、大臣御自身の受け止めはいかがでしょうか。

(答) 少なくとも私は福島、先ほどからお話しているとおおり、これで12市町村全部訪問させていただきまし、首長の皆さんからも話を聞かせていただきましたし、もちろん被災地の方々にすると十分でないかもしれませうけれども、実は就任2か月の間、福島に限らず宮城、岩手も含めて、今日で10回目かなと思いますけれども、訪問させていただいておりますので、私なりにしっかりと復興大臣としての仕事に取り組んできたというふうに思います。県議会選の結果につきましては、これはまた党が判断をするのではないかなというふうに思っております。

(以 上)